

# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目

### (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

#### 【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。  
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係  
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係  
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援  
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用  
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。  
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援  
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援  
 項目番号61 ○日常的な外出支援  
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援  
 項目番号63 ○電話や手紙の支援  
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

#### 【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

|                        |             |
|------------------------|-------------|
| <b>事業所名</b>            | グループホームすずらん |
| <b>(ユニット名)</b>         | I           |
| <b>記入者(管理者)<br/>氏名</b> | 有馬美代        |
| <b>評価完了日</b>           | 平成19年5月10日  |

自己評価票

| 項目                 | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいきたい項目)  | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|--------------------|--|---|---|
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |  |   |   |
| <b>1. 理念と共有</b>    |  |   |   |
| 1                  | <p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>      | <p>事業所の中で理念を作成し掲げてはいるが、まだ地域を含んだ理念とはなっていないと思う。</p>   | <p>○</p> <p>地域に住むことを念頭におき、地域との結びつきを考えた理念を考えていきたい。</p>                                       |
| 2                  | <p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>                         | <p>ユニット毎に職員同士で作成した理念を共有し、実現に向けて取り組んでいる。</p>   | <p>カンファレンスや勉強会、申し送りなどで意見の交流をしながら実践に向けて取り組んでいく。</p>  |
| 3                  | <p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> | <p>法人の理事のお宅に利用者さんと共にお茶のみに誘われ交流を深めている。また近所の方が定期的に遊びにきてくれ大正琴に合わせて皆で歌ったり、お茶を飲んだりしてくれている。</p> | <p>○</p> <p>限られた人達だけでなく地域の方に理解してもらい、認知症になっても住みなれた所で安心して暮らして行けるよう折にふれ啓蒙して行きたい。</p>           |
| <b>2. 地域との支えあい</b> |  |   |   |
| 4                  | <p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> | <p>隣近所の方との交流はあるが気軽に立ち寄ってもらえるところまでにはなっていない。玄関先で飼っているうさぎを見に来てくれることはある。夏祭りなどで参加を呼びかけた。</p>   | <p>行事の時だけでなく日常的に立ち寄ってもらえるように働きかけていきたい。事業所の理解をしてもらうとともに、利用者との交流の場を作りたい。</p>                  |
| 5                  | <p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>   | <p>運営推進会議のメンバーの町内会長さんを通じて本年4月より町内会に加入し、隣組のつき合いをしている。</p>                                  | <p>地域の行事などに参加するだけでなく、回覧板などを通じてグループホームからも発信して認知症になっても生き生きと暮らしていけるということを地域の皆さんにもわかっていただく。</p> |

| 項 目                          |   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|------------------------------|---|--|------------------------|---|
| 6                            | ○事業所の力を活かした地域貢献<br><br>利用者への支援を基盤に、事業所や職員<br>の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮<br>らしに役立つことがないか話し合い、取り<br>組んでいる                | 3年以上の介護経験を持つ職員は認知症ケア専門<br>士を受験し、認知症についての理解を深める努力<br>をしている。家族や周りに住む認知症になった方<br>の相談相手や世話をしている。   |                        | グループホームだけでなく事業所全体（居宅介護<br>支援事業所 訪問介護事業所 デイサービス）で<br>培ったノウハウが生かせるようにしたい。地域の<br>老人会や町内会などの人が集まる所へ出向いて気<br>軽に話す機会を作る |
| <b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b> |   |  |                        |   |
| 7                            | ○評価の意義の理解と活用<br><br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び<br>外部評価を実施する意義を理解し、評価を<br>活かして具体的な改善に取り組んでいる                             | 自己評価、外部評価の意義を理解し、そのつど見<br>直しをしながら改善に取り組んでいる。   |                        | 評価を活かし、具体的な改善方法を職員全員で考<br>え改善に取り組んでいく。  |
| 8                            | ○運営推進会議を活かした取り組み<br><br>運営推進会議では、利用者やサービスの<br>実際、評価への取り組み状況等について報<br>告や話し合いを行い、そこの意見をサー<br>ビス向上に活かしている          | 包括支援センター職員や町内会の方に参加してい<br>ただき、認知症についての理解を深めるだけでな<br>く、町内の行事に参加させてもらっている  |                        | 現在の運営推進会議はグループホームの入居者さ<br>んの生活の紹介や一方的なお願いに留まってい<br>る。今後は家族は勿論の事地域の人ももっと親し<br>く交流しやすい場所と機会でありたい。                   |
| 9                            | ○市町村との連携<br><br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議<br>以外にも行き来する機会をつくり、市町村<br>とともにサービスの質の向上に取り組んで<br>いる                          | 昨年、5周年記念事業として一般市民や認知症を<br>抱える家族、認知症ケアに携わっている方に向け<br>て記念講演会を開催した。その後、業種や職種を<br>越えた認知症の方を支えるネットワークをつくり、<br>今年は市後援により「気仙ぼけ一座」を招き<br>市民に参加してもらう等活動中。 |                        | 外部に向かって積極的にアピールするには自分た<br>ちのケアの質が問われる。職員ひとりひとりが認<br>知症の方と正面から向き合い質の向上を目指した<br>い。                                  |
| 10                           | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br><br>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成<br>年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々<br>の必要性を関係者と話し合い、必要な人<br>にはそれらを活用できるよう支援している | 管理者が居宅介護支援事業所のケアマネでもある<br>ため地域権利擁護事業や成年後見制度については<br>学ぶ機会もある。必要と思われる方については、<br>市役所や包括支援センターとも相談・連携してい<br>る。                                       |                        | 身内がない、身内が高齢化し支援が難しい状況<br>になってきた場合、制度を活用することを早めに<br>検討していきたい。  |
| 11                           | ○虐待の防止の徹底<br><br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法<br>について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や<br>事業所内で虐待が見過ごされることがない<br>よう注意を払い、防止に努めている           | 虐待はないが、虐待を予防するための取り組みは<br>十分とはいえない。  | ○                      | 意思を伝えられない人ほどその人にとり本当に望<br>ましい生活は何なのか考え生活リズムを作って行<br>きたい。高齢者虐待防止法についても研修を行<br>いたい。                                 |

| 項目                     | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)  |
|------------------------|--|--------------------|--|
| <b>4. 理念を実践するための体制</b> |  |                    |  |
| 12                     | <p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>            |                    | <p>できるだけなじみの関係ができあがった上で入居していただく。そうでない方にも職員が家庭に逢いに行き、その方が大切にしている物や生活過程を知り、信頼関係が構築できてから入居していただくようにしたい。</p> |
| 13                     | <p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>           | ○                  | <p>利用者の意見や不満などがあればいつでも素直に表せるような信頼関係を築いていきたい。</p>   |
| 14                     | <p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>         |                    | <p>読み書きする力は残されている方が多いので職員が全部代筆するのではなく、毎月本人からも大好きな家族に楽しみながら書いてもらうようにしたい。</p>                              |
| 15                     | <p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>           |                    | <p>入居されてる人に対する家族の思いを受けとめる機会を増やしたい。認知症の人が主人公で生き生きと暮らすことができ、その家族も安心できるよう支援していきたい</p>                       |
| 16                     | <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>                       |                    | <p>定期的な面接を組織化し、職員の意見を聞く機会を設けたい。</p>  |
| 17                     | <p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> |                    | <p>急に休みをとらなければならない職員がでた場合、2ユニットの中で調整したり管理者が勤務に入ったりしている。</p>  |

| 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|---|--|--------------------|---|
| <p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>同じ敷地内にある2ユニットのホーム間では勤務異動があっても、お互いにカバーして勤務し、なじみの関係が突然切れないようにしている。また朝のミーティングを一緒にする事により情報を共有している</p>       |                    | <p>勤務異動は利用者の状態に配慮しながら実施している。結婚や出産によりやめた場合は赤ちゃんを連れて遊びにきてくれたりすると自分の孫のように喜んでくれる。</p>   |
| <p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>   |  |                    |   |
| <p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>              | <p>グループホーム連絡協議会等の研修を中心にその人の段階にあった研修へ参加している。又、内部研修も定期的に行い自分達に必要な研修会を開催しているが、スーパービジョンのような形まではまだおこなっていない。</p> |                    | <p>グループホーム連絡協議会の研修を中心に（当法人の職員が研修委員長）その人の段階にあった研修へ参加させている。内部研修も研修委員会を作り定期的を開催している。今年度からは経験や能力に適した研修を企画・運営する。</p>   |
| <p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>    | <p>開設者や管理者同士の質の向上に向けた情報交流会やグループホーム連絡協議会での研修で情報交換をしている。</p>   |                    | <p>業種や職種の枠を超えた認知症ネットワークを設立して、地域で認知症の方が住みやすい環境にしていきたい。</p>   |
| <p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>                                       | <p>グループホームで勤務している職員はかなりのストレス（一日精一杯認知症のかたと正面から向き合っている）があると思う。休みの時は自分の生活を有意義に送って欲しい。</p>                     |                    | <p>歓迎会など、時々幹部職員が入らない飲み会を設定している。自分たちだけでのびのびと楽しんでもらい、同期に入社した同士や同じ職場で悩みなどを話し合う事ができ仲間意識が持てるようにする。今年からは旅行に行ったり家族サービスができるよう、休みをまとめて一週間取ることができるリフレッシュ休暇を設けた。</p> |
| <p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>                           | <p>成長できる環境づくりを心がけている。資格取得など常に目標を設定しておこなっている。経験3年以上の職員に対しては、認知症ケア専門士の資格取得への援助もしている。</p>                     |                    | <p>毎日一人のカンファランスを行い、参加者全員の考えを発言することによって、認知症ケアを学ぶ場にもなっている。また認知症ケア専門士の受験資格のある職員は支障のない限り受験するようある程度義務つけている。（受験料を法人で負担している）</p>                                 |

| 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目)                   | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                     |
|---|--|--|--|
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>                          |  |  |  |
| <b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b> |  |  |  |
| 23  | ○初期に築く本人との信頼関係<br>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)                  |  |  |
| 24  | ○初期に築く家族との信頼関係<br>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)                       |  |  |
| 25  | ○初期対応の見極めと支援<br>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)                               |  |  |
| 26  | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護) |  |  |
| <b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>                    |  |  |  |
| 27  | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                                   | 本人の出来ることはしてもらい、出来ないところを職員が支えていくように努めている。 | 料理や裁縫を教えてもらったり、一緒に行いながらも本人がやった達成感や満足感があるように支援していく。 |

| 項 目 |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|-----|--|---|------------------------|--|
| 28  | ○本人を共に支えあう家族との関係<br><br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている         | 一緒に本人を支えていく関係を築いていけるように、行事に参加してもらった時や、面会時に本人の話などして関係を築けるようにしているが、まだまだ不十分。 | ○                      | 関係をより一層密にしていけるように面会時や行事の機会を利用し話をしていきたい。そして、家族が足を運びやすいような関係、環境を作っていきたい。 |
| 29  | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援<br><br>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している             | どちらの意見も十分理解した上でよい関係が築けるよう支援している。  |                        | 今後もよい関係が続くように支援していきたい。   |
| 30  | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br><br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている               | できるだけ昔から行っていたお店や美容院を出来るようにしている。、また、年賀状や手紙の返事など関係を大切にするよう努めている。            | ○                      | 本人が大切にしていたものや馴染みのものについて本人や家族から情報を得て、馴染みの環境にいられるように支援していく。              |
| 31  | ○利用者同士の関係の支援<br><br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている              | 入居者同士が関わりあえるように努めているが、孤立してしまっていることがある。入居者同士の関係が築けるように努めている。               | ○                      | 職員が出来ることまでしていたことが多かったので出来ないところを職員が手助けし、入居者同士が支えあえるような生活が送れるようにする。      |
| 32  | ○関係を断ち切らない取り組み<br><br>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 利用者や家族と触れ合えた時間は職員にとっても忘れられない思い出となっている。残された家族とも迷惑にならない程度に関係を継続していきたい。      |                        | 継続的な関係を大切にしていきたい。  |

| 項目                                    | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目)   | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|---------------------------------------|---|--|---|
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>    |   |  |   |
| <b>1. 一人ひとりの把握</b>                    |   |  |   |
| 33                                    | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している  | センター方式などを使用することで一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。また、困難な方についても本人本位に考えるよう心がけている。                                  | センター方式をもっと活用し、一人ひとりの思いはどうかをいろいろな方法で把握していくようにしていきたい。また、本人本位で考えることを忘れないようにしていきたい。 |
| 34                                    | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                    | 本人や家族の方から情報を収集し把握に努めている。   | ○<br>これからも情報収集し、一人ひとりを知ってケアが出来るように把握に努めていきたい。                                   |
| 35                                    | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている  | 一人ひとりの出来ること、出来ないこと、出来なくなってしまうことなどについて把握するように努めている。   | ○<br>一人ひとりの現状について把握し、ケアに反映できるようにしていきたい。   |
| <b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b> |   |  |   |
| 36                                    | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している     | 介護計画を作成する際本人や家族の意見が反映されるように作成している。   | 本人や家族、関係者と話し合いそれぞれの意見が反映された介護計画を作成していきたい。                                       |
| 37                                    | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画の期間に応じて見直しするよう努めている。毎朝のカンファレンスにおいて現状や変化について話し合いを行いプランに反映させている。また、ケース記録に掲げている短期目標を毎月見直し、プランに活かしている。 | 短期目標を介護計画に反映させ、見直しを定期的に行っていきたい。現状に即した計画であるように努めていきたい。                           |



| 項 目   |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                               | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)   |
|---|--|---|------------------------|---|
| 38  | ○個別の記録と実践への反映<br><br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている    | 介護計画の短期目標に応じた記録をしている。また、日々の様子などについて記録をおこない情報を共有するように「している」。   | ○                      | 毎日の個別記録をもとに介護計画の見直しを行う。また、情報を共有し継続したケアをおこなっていく。   |
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b> |  |   |                        |   |
| 39  | ○事業所の多機能性を活かした支援<br><br>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護) | /   |                        |   |
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>          |  |   |                        |   |
| 40  | ○地域資源との協働<br><br>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している             | 隣接している保育園児との交流や地域の公民館祭りや博物館 文化センターでの催し物に参加して利用している。           | ○                      | 交番の巡査と連携を図る。プライバシーの保持を原則に入居者の情報を伝えておく。消防署には防火訓練時入居者と共に指導を受けている。今後はさらに理解していただけるよう取り組みを考える。 |
| 41  | ○他のサービスの活用支援<br><br>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている  | 担当していたケアマネには、逐次グループホームでの様子をお伝えしている。本人、家族の意向を尊重している。           |                        | 入居されている方だけでなく、入居希望でこられた方などにも市内のグループホームはもとより、老健、特養、療養型の施設などをその方の状況に応じて紹介し、支援している。          |
| 42  | ○地域包括支援センターとの協働<br><br>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進委員会のメンバーに地域包括支援センターになってもらっているが、予防で多忙のためなかなか協働するにはいたっていない。 |                        | 認知症になっても暮らせるまちづくりのため連携していきたい。   |

| 項目 | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|----|--|--------------------|--|
| 43 | <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>   |                    | <p>今後もかかりつけ医と連携して良いサービスを提供していきたい。</p>  |
| 44 | <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>  |                    | <p>協力病院の医師に入居者の状態を報告して、相談できる体制を継続していく。</p>   |
| 45 |  |                    |  |
| 46 | <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>                      |                    | <p>普段から入院しないで済むよう健康管理と骨折などの事故防止を心がけたい。主治医と相談して治療に必要な最低の入院期間にしてもらい早期に退院して、慣れた環境のグループホームでフォローしていくようにしたい。</p> |
| 47 | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>                                   | ○                  | <p>終末期のケアについて重要事項説明書に記載しする。本人の意向を踏まえて家族（主介護者ばかりでなく子供さんや兄弟も含め）に入居時から定期的なケアプランの提示をする際、相談しておく。</p>            |
| 48 | <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> |                    | <p>普段と異なった体調の小さな変化も見逃さない観察力を養い報告できるようにしたい。（管理者が看護師）入院の必要がある緊急性のある場合は適切な病院へ紹介してもらい早期に対応する。</p>              |

| 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|--|---|------------------------|---|
| 49<br>○住み替え時の協働によるダメージの防止<br><br>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 家族、ケア関係者で話し合いを行い、環境の変化によるダメージができるだけ少なくなるように努めている。                           |                        | 環境の変化は本人にとって少なからずダメージを与えると思うので、そのダメージができるだけ少なく済むように、十分に話し合いを行い行っていきたい。                |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>   |   |                        |   |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>   |   |                        |   |
| (1)一人ひとりの尊重  |   |                        |   |
| 50<br>○プライバシーの確保の徹底<br><br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                                       | 思いや希望が表わせるような声かけや、雰囲気作り、出来るだけ自己決定できるような一人ひとりに合わせた支援を行っているが、職員が判断してしまうこともある。 |                        | 今まで同様プライバシーの確保に努めていく。   |
| 51<br>○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br><br>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている                   | 思いや希望が表わせるような声かけや、雰囲気作り、出来るだけ自己決定できるような一人ひとりに合わせた支援を行っているが、職員が判断してしまうこともある。 | ○                      | 職員が判断してしまうのではなく、本人に決めてもらうという意識を持つ。また、本人の表した思いや、希望をそのままにせず生活に反映させていく。                  |
| 52<br>○日々のその人らしい暮らし<br><br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している                        | 職員のペースにならないよう、一人ひとりのペースを大切にと心がけている。   |                        | 職員の都合に合わせない。利用者一人ひとりが自分のペースで生活できるように、一人ひとりの希望を再度確認する。利用者のペースに合わせて、必要に応じては勤務内容を検討していく。 |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)  |   |                        |   |
| 53<br>○身だしなみやおしゃれの支援<br><br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)                      | 本人の望む美容室に行ったり、化粧やおしゃれが楽しめるように支援している。  |                        | いくつになっても綺麗で、おしゃれにいられるように、本人の望む美容室に出かけたり支援していく。  |

| 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)  |
|---|--|------------------------|--|
| 54  | <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>                  |                        | <p>一人ひとりの力を活かせるように出来るところ、出来ないところを見極めてはたらくかけていきたい。また、一人ひとりのペースで食事を摂ることが出来るようにしていきたい。</p>                    |
| 55  | <p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>                         |                        | <p>日常的に楽しむことが出来るようにこれからも支援していきたい。</p>  |
| 56  | <p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>                     |                        | <p>一人ひとりの排泄パターンに合わせて気持ちよく排泄が出来るように支援していきたい。</p>  |
| 57  | <p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>                 |                        | <p>職員の都合で時間を決めたりせずに希望の時間に入浴が出来るように支援していく。</p>  |
| 58  | <p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>                                  | ○                      | <p>できるだけ気持ちよく休んでもらえるように入眠を促したり、不安を取り除く支援も行っていきたい。</p>  |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入) |  |                        |  |
| 59  | <p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p> |                        | <p>今までの得意だったことなど、力を活かした役割や仕事それぞれにあり、張り合いのある毎日を過ごすことができるように支援していきたい。また、ドライブや買い物など気晴らしや楽しみとなることも行っていきたい。</p> |

| 項 目                   |   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                       |
|-----------------------|---|--|------------------------|--|
| 60                    | ○お金の所持や使うことの支援<br><br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している (認知症対応型共同生活介護)  | お金を自分で管理している方もいるが、それ以外の方は職員が預かっている。買い物などへ行く際に本人に渡すなどしてできるだけ本人に支払ってもらえるように支援している。 |                        | 本人の力を見極めながら、お金を使えるような支援をしていきたい。                                      |
| 61                    | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している (認知症対応型共同生活介護)                    | 一人ひとりの希望にそって、散歩や外出、買い物などへ出かけている。   |                        | 一人ひとりの希望にそってどんどん戸外へ出かけて行きたい。   |
| 62                    | ○普段行けない場所への外出支援<br><br>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している (認知症対応型共同生活介護) | 小旅行などの計画を立て出かけている。その際ご家族にも連絡し一緒に出かける機会を作っている。                                    | ○                      | 家族を含めた外出や、個別での旅行の機会をたくさん作っていきたい。                                     |
| 63                    | ○電話や手紙の支援<br><br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている (認知症対応型共同生活介護)                           | 小旅行などの計画を立て出かけている。その際ご家族にも連絡し一緒に出かける機会を作っている。                                    | ○                      | 家族や友人、知人との関係がこれからも続いていくように、訴えがないときでも職員のほうから働きかけていきたい。                |
| 64                    | ○家族や馴染みの人の訪問支援<br><br>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している (認知症対応型共同生活介護)            | 気軽に訪問してもらえるように話をしたり、雰囲気づくりに気をつけている。  |                        | 気軽に訪問してもらえるように、本人が来てくれて嬉しいとっていたことや喜んでいたことを伝えたり、本人とゆっくり話が出来る環境を作っていく。 |
| <b>(4)安心と安全を支える支援</b> |   |  |                        |  |
| 65                    | ○身体拘束をしないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる         | 身体拘束について職員は理解しており、身体拘束をしないケアを行っている。  |                        | 身体拘束しないケアをこれからもおこなっていききたい。   |


| 項目 | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|----|--|------------------------|--|
| 66 | <p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p> <p>夜間の戸締り以外は開放している。</p>                                    |                        | <p>鍵をかけることの弊害を職員全員が理解し、ケアに取り組んでいきたい。</p>                                 |
| 67 | <p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p> <p>一人ひとりの所在や様子を職員全員が把握し、職員同士声をかけあい、安全生活することができるように配慮している。</p>       |                        | <p>利用者の方々が見られていると感じないようプライバシーに配慮し、所在や様子の把握を行っていく。</p>                    |
| 68 | <p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p> <p>注意に必要な針やはさみや包丁などは利用者が使える場所においてある。状況に応じて見守ったり、確認を行っている。</p> |                        | <p>危険があるものを利用者から遠ざけるのではなく、置いてある場所や、リスクについて職員が認識し、危険を防ぐよ取り組んでいくようにする。</p> |
| 69 | <p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p> <p>一人ひとりに起こりうる危険を予測し事故防止に努めている。</p>                        | ○                      | <p>事故についての勉強会を行い、職員の事故防止への意識を高めていく。</p>                                  |
| 70 | <p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p> <p>行っているが定期的ではない。</p>  | ○                      | <p>定期的に勉強会を実施し職員の知識の向上に努めたい。</p>   |
| 71 | <p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p> <p>火災訓練を実施し、避難経路や方法を確認している。</p>                        |                        | <p>定期的に訓練を行い、避難の方法などを身につけていきたい。また、近所の方の協力が得られるよう働き掛けていきたい。</p>           |

| 項 目                       |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                     | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                   |
|---------------------------|--|---|------------------------|---|
| 72                        | ○リスク対応に関する家族等との話し合い<br><br>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている | 家族の面会時や月に1度の手紙を出す際に日々の状況について連絡しているが、状況の報告となっており、対応策を話し合うまでには至っていない。 | ○                      | ご家族に起こりえるリスクについて説明し、話し合える機会を定期的にもっていききたい。                         |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |  |   |                        |   |
| 73                        | ○体調変化の早期発見と対応<br><br>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている           | 体調の変化などについて一人ひとり記録している。変化に気がつけるよう努力している。                            | ○                      | 一人ひとりの変化に気がつけるように日々の様子を記録し、情報を共有していく。変化に気がついた際は医師などとの連携を図っていく。    |
| 74                        | ○服薬支援<br><br>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている       | 処方箋はファイルし職員の目につくところに置き、いつでも確認ができるようになっている。                          | ○                      | ひとり一人の薬の内容について職員全員が理解し、服薬の支援を行っていく。                               |
| 75                        | ○便秘の予防と対応<br><br>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる         | 水分の摂取量などに気をつけている。また、できるだけ体を動かしてもらえるように働きかけている。                      |                        | 便秘について理解し、食事の工夫や水分をできるだけ多く取ってもらい摂取量を観察する。また、体を動かしてもらえるように働きかけていく。 |
| 76                        | ○口腔内の清潔保持<br><br>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている                   | きちんと行えている利用者としてそうでない利用者がある。定期的に歯科往診を受けている。                          |                        | 食事がおいしく食べることが出来るように食後の歯磨きの声かけをおこなったり、職員も一緒に歯磨きを行い、口腔内の清潔に努めていく。   |
| 77                        | ○栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている      | 食事量については一人ひとり個別記録に記録をしている。それぞれに合った食事量にはなっていない。                      |                        | 一人ひとりに合わせた食事量で提供していく。また、それぞれの習慣に応じた支援を行っていく。                      |

| 項 目                            |   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                      | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|--------------------------------|---|--|------------------------|--|
| 78                             | ○感染症予防<br>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)  | 感染症に関する予防、対応のマニュアルがある。<br>感染症が起らないように予防に努めている。                       | ○                      | 感染症が起こった際は対応のマニュアルに添った対応を行う。感染症が起らないように日々予防に努める。   |
| 79                             | ○食材の管理<br>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている  | 毎日買い物へ行き新鮮な食材を利用している。<br>又、調理用具などの洗浄、消毒を行い食中毒の予防に努めている。              |                        | 新鮮な食材を使用し、食材の管理にも気をつけていく。また、調理用具などの衛生管理を今まで同様きちんと行っていく。                                    |
| <b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> |   |  |                        |  |
| <b>(1)居心地のよい環境づくり</b>          |   |  |                        |  |
| 80                             | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫<br>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている                                | 玄関先にうさぎの小屋があり近所の方が立ち寄ってくれる。花などを植え親しみやすい環境を作っている。                     | ○                      | ベランダや玄関先の花壇に花を植えるなどして親しみやすいような環境作りを行っていききたい。   |
| 81                             | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者にとって不快となるような音や光がないように配慮している。状況に応じてテレビやCDをかけて穏やかな雰囲気でも過ごせるようにしている。 |                        | テレビをつけっぱなしにしたりせずに、状況に応じてつけたり消したりし不快とならないように配慮していく。また、季節感が感じられるように季節の花や飾りを飾ったりして季節を感じていただく。 |
| 82                             | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている                                | 和室の部分に間仕切りをしたことで利用者同士がゆっくりと過ごすことができるようになった。                          |                        | 利用者がそれぞれの時間を過ごすことができるように環境を日々考えていききたい。   |



| 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|---|--|------------------------|---|
| <p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>ご家族と相談し自宅で使用していた使い慣れたなじみのものを持ってきてもらい、まだまだ一人ひとりに十分ではないが、本人が居心地よく過ごすことのできる環境作りを行っている。</p> |                        | <p>ご家族と相談し本人にとって居心地の良い環境作りをしていきたい。</p>  |
| <p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>       | <p>換気には十分に気を配っており、気になる臭いやだよみがないように注意している。また、温度調節もこまめに行っている。</p>                            |                        | <p>換気、温度調節とも気を配りこまめに行っていきたい。</p>  |
| <p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>   |  |                        |   |
| <p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>                | <p>手すりや椅子、ベンチなどがあり、安全で自立した生活が送れるように工夫している。</p>   |                        | <p>手すりなどがあり自立した生活を送ることができる環境にあるので職員が手を貸しすぎてしまうことで自立を妨げてしまうことがないように支援していきたい。また、利用者の身体状況が変化した際には環境の見直しを行っていきたい。</p> |
| <p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>                          | <p>一人ひとりのできる力を活かして、出来るところは時間がかかってもしっかり行ってもらおうように心がけ支援しているが、時々手を貸しすぎてしまうことがある。</p>          | ○                      | <p>一人ひとりの出来ること出来ないことをもう一度見直して、利用者の持っている力を活かしてもらえるような環境、役割作りを行っていきたい。</p>  |
| <p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>                                  | <p>畑や花壇があるが特定の利用者のみが使用している状態である。</p>   | ○                      | <p>特定の利用者だけでなく一人ひとりが外での活動に参加できるように支援していきたい。</p>   |

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

| V. サービスの成果に関する項目 |  | 取 り 組 み の 成 果<br>(該当する箇所を○印で囲むこと)                                       |
|------------------|--|---|
| 項 目              |  |   |
| 88               | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる                      | ○ ①ほぼ全ての利用者の<br>②利用者の2/3くらいの<br>③利用者の1/3くらいの<br>④ほとんど掴んでいない<br>⑤その他 ( ) |
| 89               | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある                         | ○ ①毎日ある<br>②数日に1回程度ある<br>③たまにある<br>④ほとんどない<br>⑤その他 ( )                  |
| 90               | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている                            | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない<br>⑤その他 ( )    |
| 91               | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている                 | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない<br>⑤その他 ( )    |
| 92               | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている                           | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない<br>⑤その他 ( )    |
| 93               | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている                    | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない<br>⑤その他 ( )    |
| 94               | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている            | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない<br>⑤その他 ( )    |
| 95               | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ ①ほぼ全ての家族と<br>②家族の2/3くらいと<br>③家族の1/3くらいと<br>④ほとんどできていない<br>⑤その他 ( )    |
| 96               | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている                 | ○ ①ほぼ毎日のように<br>②数日に1回程度<br>③たまに<br>④ほとんどない<br>⑤その他 ( )                  |

| 項 目 |   | 取 り 組 み の 成 果<br>(該当する箇所を○印で囲むこと)   |
|-----|---|---|
| 97  | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | <input type="radio"/> ①大いに増えている<br><input type="radio"/> ②少しずつ増えている<br><input type="radio"/> ③あまり増えていない<br><input type="radio"/> ④全くいない<br><input type="radio"/> ⑤その他 ( )           |
| 98  | 職員は、生き活きと働いている  | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が<br><input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが<br><input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが<br><input type="radio"/> ④ほとんどいない<br><input type="radio"/> ⑤その他 ( )       |
| 99  | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                           | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が<br><input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが<br><input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが<br><input type="radio"/> ④ほとんどいない<br><input type="radio"/> ⑤その他 ( )    |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                       | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が<br><input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが<br><input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが<br><input type="radio"/> ④ほとんどできていない<br><input type="radio"/> ⑤その他 ( ) |

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者さんのできる事、できない事を見極め、職員があまり手を貸しすぎず、入居者同士で助け合える生活を支援することを理念に掲げケアにあたっています。自己決定することを大切に、できるだけその人に決定してもらえるような声かけや環境づくりをするように心がけ、その人のできることやできる可能性を見出していきたい。

# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目

### (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

#### 【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。  
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係  
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係  
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援  
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用  
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。  
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援  
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援  
 項目番号61 ○日常的な外出支援  
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援  
 項目番号63 ○電話や手紙の支援  
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

#### 【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホームすずらん

(ユニット名) Ⅱ

記入者(管理者)  
氏名 有馬美代

評価完了日 平成19年5月10日

自己評価票

| 項 目                | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目)   | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |  |
|--------------------|---|--|--------------------------------|--|
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |   |  |                                |  |
| <b>1. 理念と共有</b>    |   |  |                                |  |
| 1                  | ○地域密着型サービスとしての理念<br><br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている      | 事業所の中で理念を作成し掲げてはいるが、まだ地域を含んだ理念とはなっていないと思う。   | ○                              | 地域に住むことを念頭におき、地域との結びつきを考えた理念を考えていきたい。  |
| 2                  | ○理念の共有と日々の取り組み<br><br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                         | ユニット毎に職員同士で作成した理念を共有し、実現に向けて取り組んでいる。   |                                | カンファレンスや勉強会、申し送りなどで意見の交流をしながら実践に向けて取り組んでいく。  |
| 3                  | ○家族や地域への理念の浸透<br><br>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | 法人の理事のお宅に利用者さんと共にお茶のみに誘われ交流を深めている。また近所の方が定期的に遊びにきてくれ大正琴に合わせて皆で歌ったり、お茶を飲んだりしてくれている。 | ○                              | 限られた人達だけでなく地域の方に理解してもらい、認知症になっても住みなれた所で安心して暮らして行けるよう折にふれ啓蒙して行きたい。                    |
| <b>2. 地域との支えあい</b> |   |  |                                |  |
| 4                  | ○隣近所とのつきあい<br><br>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 隣近所の方との交流はあるが気軽に立ち寄ってもらえるところまでにはなっていない。玄関先で飼っているうさぎを見に来てくれることはある。夏祭りなどで参加を呼びかけた。   |                                | 行事の時だけでなく日常的に立ち寄ってもらえるように働きかけていきたい。事業所の理解をしてもらうとともに、利用者との交流の場を作りたい。                  |
| 5                  | ○地域とのつきあい<br><br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている   | 運営推進会議のメンバーの町内会長さんを通じて本年4月より町内会に加入し、隣組のつき合いをしている。                                  |                                | 地域の行事などに参加するだけでなく、回覧板などを通じてグループホームからも発信して認知症になっても生き生きと暮らしていけるということを地域の皆さんにもわかっていただく。 |

| 項目                           |   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|------------------------------|---|--|--------------------|---|
| 6                            | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる                | 3年以上の介護経験を持つ職員は認知症ケア専門士を受験し、認知症についての理解を深める努力をしている。家族や周りに住む認知症になった方の相談相手や世話をしている。   |                    | グループホームだけでなく事業所全体（居宅介護支援事業所 訪問介護事業所 デイサービス）で培ったノウハウが生かせるようにしたい。地域の老人会や町内会などの人が集まる所へ出向いて気軽に話す機会を作る |
| <b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b> |   |  |                    |   |
| 7                            | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                         | 自己評価、外部評価の意義を理解し、そのつど見直しをしながら改善に取り組んでいる。   |                    | 評価を活かし、具体的な改善方法を職員全員で考え改善に取り組んでいく。  |
| 8                            | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている          | 包括支援センター職員や町内会の方に参加していただき、認知症についての理解を深めるだけでなく、町内の行事に参加させてもらっている  |                    | 現在の運営推進会議はグループホームの入居者さんの生活の紹介や一方的なお願いに留まっている。今後は家族は勿論の事地域の人ともっと親しく交流しやすいサロンの場所と機会でありたい。           |
| 9                            | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                          | 昨年、5周年記念事業として一般市民や認知症を抱える家族、認知症ケアに携わっている方に向けて記念講演会を開催した。その後、業種や職種を越えた認知症の方を支えるネットワークをつくり、今年は市後援により「気仙ぼけ一座」を招き市民に参加してもらう等活動中。 |                    | 外部に向かって積極的にアピールするには自分たちのケアの質が問われる。職員ひとりひとりが認知症の方と正面から向き合い質の向上を目指したい。                              |
| 10                           | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 管理者が居宅介護支援事業所のケアマネでもあるため地域権利擁護事業や成年後見制度については学ぶ機会もある。必要と思われる方については、市役所や包括支援センターとも相談・連携している。                                   |                    | 身内がない、身内が高齢化し支援が難しい状況になってきた場合、制度を活用することを早めに検討していきたい。  |
| 11                           | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている          | 虐待はないが、虐待を予防するための取り組みは十分とはいえない。  | ○                  | 意思を伝えられない人ほどその人にとり本当に望ましい生活は何なのか考え生活リズムを作って行きたい。高齢者虐待防止法についても研修を行いたい。                             |

| 項目                     | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|------------------------|--|--------------------|--|
| <b>4. 理念を実践するための体制</b> |  |                    |  |
| 12                     | <p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>            |                    | <p>できるだけなじみの関係ができあがった上で入居していただく。そうでない方にも職員が家庭に逢いに行き、その方が大切にしている物や生活過程を知り、信頼関係が構築できてから入居していただくようにしたい。</p> |
| 13                     | <p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>           | ○                  | <p>利用者の意見や不満などがあればいつでも素直に表せるような信頼関係を築いていきたい。</p>   |
| 14                     | <p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>         |                    | <p>読む判断力は残されている方が多いので職員が全部代筆するのではなく、毎月本人からも大好きな家族に楽しみながら書いてもらうようにしたい。</p>                                |
| 15                     | <p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>           |                    | <p>入居されてる人に対する家族の思いを受けとめる機会を増やしたい。認知症の人が主人公で生き生きと暮らすことができ、その家族も安心できるよう支援していきたい</p>                       |
| 16                     | <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>                       |                    | <p>定期的な面接を組織化し、職員の意見を聞く機会を設けたい。</p>  |
| 17                     | <p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> |                    | <p>急に休みをとらなければならない職員がでた場合、2ユニットの中で調整したり管理者が勤務に入ったりしている。</p>  |

| 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|---|--|--------------------|--|
| 18 ○職員の異動等による影響への配慮<br><br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 同じ敷地内にある2ユニットのホーム間では勤務異動があってもきちんとわけないでお互いにカバーして勤務 なじみの関係が突然切れないようにしている。また朝のミーティングを一緒にする事により情報を共有している |                    | 勤務異動は利用者の状態に配慮しながら実施している。結婚や出産によりやめた場合は赤ちゃんを連れて遊びにきてくれたりすると自分の孫のように喜んでくれる。   |
| <b>5. 人材の育成と支援</b>  |  |                    |  |
| 19 ○職員を育てる取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | グループホーム連絡協議会等の研修を中心にその人の段階にあった研修へ参加している。又、内部研修も定期的に行い自分達に必要な研修会を開催しているが、スーパービジョンのような形まではまだおこなっていない。  |                    | グループホーム連絡協議会の研修を中心に（当法人の職員が研修委員長）その人の段階にあった研修へ参加させている。内部研修も研修委員会を作り定期的を開催している。今年度からは経験や能力に適した研修を企画・運営する。   |
| 20 ○同業者との交流を通じた向上<br><br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | 開設者や管理者同士の質の向上に向けた情報交流会やグループホーム連絡協議会での研修で情報交換をしている。  |                    | 業種や職種の枠を超えた認知症ネットワークを設立して、地域で認知症の方が住みやすい環境にしていきたい。   |
| 21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる                                       | グループホームで勤務している職員はかなりのストレス（一日精一杯認知症のかたと正面から向き合っている）があると思う。休みの時は自分の生活を有意義に送って欲しい。                      |                    | 歓迎会など、時々幹部職員が入らない飲み会を設定している。自分たちだけでのびのびと楽しんでもらい、同期に入社した同士や同じ職場で悩みなどを話し合う事ができ仲間意識が持てるようにする。今年からは旅行に行ったり家族サービスができるよう、休みをまとめて一週間取ることができるリフレッシュ休暇を設けた。 |
| 22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている                           | 成長できる環境づくりを心がけている。資格取得など常に目標を設定しておこなっている。経験3年以上の職員に対しては、認知症ケア専門士の資格取得への援助もしている。                      |                    | 毎日一人のカンファランスを行い、参加者全員の考えを発言することによって、認知症ケアを学ぶ場にもなっている。また認知症ケア専門士の受験資格のある職員は支障のない限り受験するようにある程度義務づけている。（受験料を法人で負担している）                                |



| 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目)                                    | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)         |
|---|--|---|--|
| <b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>                         |  |   |  |
| <b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b> |  |   |  |
| 23  | ○初期に築く本人との信頼関係<br>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)                  | /   |  |
| 24  | ○初期に築く家族との信頼関係<br>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)                       |   |  |
| 25  | ○初期対応の見極めと支援<br>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)                               |   |  |
| 26  | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護) |   |  |
| <b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>                    |  |   |  |
| 27  | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                                   | 介護される一方の立場と考えず、共に暮らす家族と考えている。一緒に暮らす中で、本人から教わったり知ることが沢山ある。 | 今後も共に暮らす家族であるという気持ちを忘れずに、支えあい過ごしていきたい。 |

| 項 目 |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)   |
|-----|--|---|------------------------|--|
| 28  | ○本人を共に支えあう家族との関係<br><br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている         | 一緒に本人を支えていく関係を築いていけるように、行事に参加してもらった時や、面会時に本人の話などして関係を築けるようにしているが、まだまだ不十分。 |                        | 関係をより一層密にしていけるように面会時や行事の機会を利用し話をしていきたい。そして、家族が足を運びやすいような関係、環境を作っていきたい。           |
| 29  | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援<br><br>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している             | どちらの意見も十分理解した上でよい関係が築けるよう支援している。  |                        | 今後もよい関係が続くように支援していきたい。   |
| 30  | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br><br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている               | 家族の協力を得て自宅に帰ったり、昔からの友人が遊びに来てくださることもあったが、一部の利用者で全員にとはいかなかった。               | ○                      | 入居者一人一人の馴染みの人や場所についてももう一度情報収集し直し、ご家族の協力も得ながら支援していきたい。                            |
| 31  | ○利用者同士の関係の支援<br><br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている              | 利用者同士が関わるができるように職員が間に入ったり、ドライブや散歩に誘い交流を持てるように努めている。                       |                        | 孤立してもその後皆さんと関わるができる環境を作ったり、お互いの良い所や、得意なところを知ることのできる環境を作り、良い関係を築くことができるように支援していく。 |
| 32  | ○関係を断ち切らない取り組み<br><br>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 利用者や家族と触れ合えた時間は職員にとっても忘れられない思い出となっている。残された家族とも迷惑にならない程度に関係を継続していきたい。      |                        | 継続的な関係を大切にしていきたい。  |

| 項目                                    | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目)   | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|---------------------------------------|---|--|---|
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>    |   |  |   |
| <b>1. 一人ひとりの把握</b>                    |   |  |   |
| 33                                    | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している  | センター方式などを使用することで一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。また、困難な方についても本人本位に考えるよう心がけている。                                  | センター方式をもっと活用し、一人ひとりの思いはどうかをいろいろな方法で把握していくようにしていきたい。また、本人本位で考えることを忘れないようにしていきたい。                 |
| 34                                    | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                    | 本人や家族から今までの暮らしの様子などについて情報を収集しまとめているが、まだまだわからないことが多い。   | ○<br>本人を取り巻く方々からの情報収集を行い、入居までの歴史を理解したうえで支援していく。   |
| 35                                    | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている  | 1日の状況を記録し、その場になかった職員も状況を把握できるようにしている。  | 毎日の記録をもっと活用し、心身状態や、出来ること出来ないことの変化などについて状況の分析をして、介護計画に生かしていきたい。                                  |
| <b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b> |   |  |   |
| 36                                    | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している     | 本人、家族の意見の反映がまだ十分とはいえないが、カンファレンスを開催しケアのあり方について話し合いを行い、介護計画を作成している。                                      | 介護計画についての勉強会を開催し理解を深めていく。また、本人、家族の意見がもっと反映されるように話し合いの場を定期的に設けていくようにする。面会時に意見を聞いたり、介護計画について話をする。 |
| 37                                    | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画の期間に応じて見直しするよう努めている。毎朝のカンファレンスにおいて現状や変化について話し合いを行いプランに反映させている。また、ケース記録に掲げている短期目標を毎月見直し、プランに活かしている。 | 短期目標を介護計画に反映させ、見直しを定期的に行っていきたい。現状に即した計画であるように努めていきたい。   |

| 項 目   |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                               | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)   |
|---|--|---|------------------------|---|
| 38  | ○個別の記録と実践への反映<br><br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている    | 個別記録に毎日の状況を記入している。情報を共有することでケアが継続するように心がけている。                 | ○                      | 毎日の記録が介護計画に生かされ、また介護計画に沿って毎日の記録を行っていく。  |
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b> |  |   |                        |   |
| 39  | ○事業所の多機能性を活かした支援<br><br>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護) | /   |                        |   |
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>          |  |   |                        |   |
| 40  | ○地域資源との協働<br><br>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している             | 隣接している保育園児との交流や地域の公民館祭りや博物館 文化センターでの催し物に参加して利用している。           | ○                      | 交番の巡査と連携を図る。プライバシーの保持を原則に入居者の情報を伝えておく。消防署には防火訓練時入居者と共に指導を受けている。今後はさらに理解していただけるよう取り組みを考える。 |
| 41  | ○他のサービスの活用支援<br><br>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている  | 担当していたケアマネには、逐次グループホームでの様子をお伝えしている。本人、家族の意向を尊重している。           |                        | 入居されている方だけでなく、入居希望でこられた方などにも市内のグループホームはもとより、老健、特養、療養型の施設などをその方の状況に応じて紹介し、支援している。          |
| 42  | ○地域包括支援センターとの協働<br><br>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進委員会のメンバーに地域包括支援センターになってもらっているが、予防で多忙のためなかなか協働するにはいたっていない。 |                        | 認知症になっても暮らせるまちづくりのため連携していきたい。   |

| 項目 | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|----|--|--------------------|--|
| 43 | <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>   |                    | <p>今後もかかりつけ医と連携して良いサービスを提供していきたい。</p>  |
| 44 | <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>  |                    | <p>協力病院の医師に入居者の状態を報告して、相談できる体制を継続していく。</p>   |
| 45 |  |                    |  |
| 46 | <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>                      |                    | <p>普段から入院しないで済むよう健康管理と骨折などの事故防止を心がけたい。主治医と相談して治療に必要な最低の入院期間にしてもらい早期に退院して、慣れた環境のグループホームでフォローしていくようにしたい。</p> |
| 47 | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>                                   | ○                  | <p>終末期ケアについて重要事項説明書に記載する。本人の意向を踏まえて家族（主介護者ばかりでなく子供さんや兄弟も含め）に入居時から定期的なケアプランの提示をする際、相談しておく。</p>              |
| 48 | <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> |                    | <p>普段と異なった体調の小さな変化も見逃さない観察力を養い報告できるようにしたい。（管理者が看護師）入院の必要がある緊急性のある場合は適切な病院へ紹介してもらい早期に対応する。</p>              |

| 項 目  |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|--|--|--|------------------------|---|
| 49   | ○住み替え時の協働によるダメージの防止<br><br>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 家族、ケア関係者で話し合いを行い、環境の変化によるダメージができるだけ少なくなるように努めている。  |                        | 環境の変化は本人にとって少なからずダメージを与えると思うので、そのダメージができるだけ少なく済むように、十分に話し合いを行い行っていきたい。                |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>                             |  |  |                        |   |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>                                       |  |  |                        |   |
| <b>(1)一人ひとりの尊重</b>   |  |  |                        |   |
| 50   | ○プライバシーの確保の徹底<br><br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                                       | プライバシーを損ねないよう十分に配慮しケアにあたっている。また、記録の取り扱いについても十分に気をつけ保管場所を決めている。                           |                        | 今まで同様プライバシーの確保に努めていく。   |
| 51   | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br><br>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている                   | 思いや希望が表わせるような声かけや、雰囲気作り、出来るだけ自己決定できるような一人ひとりに合わせた支援を行っているが、職員が判断してしまうこともある。              | ○                      | 職員が判断してしまうのではなく、本人に決めてもらうという意識を持つ。また、本人の表した思いや、希望をそのままにせず生活に反映させていく。                  |
| 52   | ○日々のその人らしい暮らし<br><br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している                        | 職員のペースにならないよう、一人ひとりのペースを大切に心がけている。   |                        | 職員の都合に合わせない。利用者一人ひとりが自分のペースで生活できるように、一人ひとりの希望を再度確認する。利用者のペースに合わせて、必要に応じては勤務内容を検討していく。 |
| <b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b> |  |  |                        |   |
| 53   | ○身だしなみやおしゃれの支援<br><br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)                      | 本人の望む店とはいかないが、本人が利用したいときに安心して利用できるように支援している。また、理容・美容室に行くことができない方には、ホームに来てもらいカットしてもらっている。 |                        | 洋服などの買い物や、美容室への外出などお、本人が出かけたいと思った時にかけられるように支援していく。                                    |

| 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|---|--|------------------------|--|
| 54  | <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>                  |                        | <p>行っているのが一部の方なので、一人ひとりの出来るところ、出来ないところを見極めて、状況に応じて参加できるように支援していきたい。</p>                                      |
| 55  | <p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>                         |                        | <p>体重の増加や体調を考えながら、出来る限り本人の好むものを楽しむことができるように支援していきたい。</p>   |
| 56  | <p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>                     |                        | <p>一人ひとりの排泄パターンを再度確認し直し、一人ひとりに合った誘導を行っていききたい。</p>  |
| 57  | <p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>                 |                        | <p>今まで同様希望があった時には入浴していただく。入浴が好きでない方や訴えがない方についても、「入ってよかった」気持ちよかった」と思っただけのように支援していきたい。</p>                     |
| 58  | <p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>                                  |                        | <p>職員の都合に合わせて入眠を促すのではなく、それぞれの今までの生活習慣や日々の状況に応じて、気持ちよく眠ることができるように支援していきたい。</p>                                |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入) |  |                        |  |
| 59  | <p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p> |                        | <p>今までの得意だったことなど、力を活かした役割や仕事がそれぞれにあり、張り合いのある毎日を過ごすことができるように支援していきたい。また、ドライブや買い物など気晴らしや楽しみとなることも行っていききたい。</p> |

| 項 目                   |   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|-----------------------|---|--|------------------------|--|
| 60                    | ○お金の所持や使うことの支援<br><br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している (認知症対応型共同生活介護)  | お金を所持している方もいるがほとんどの方のお金は職員が管理しており、必要な時に本人に渡したり、一緒に買い物に出かけた際本人に支払ってもらったりしている。                   |                        | 本人の力を見極めながら、お金を使えるような支援をしていきたい。  |
| 61                    | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している (認知症対応型共同生活介護)                    | できるだけ戸外へ出かけるようにしている。希望する場所によっては希望に添うことができないこともあるが、だからといって出かけないのではなく、気晴らしになるよう積極的に出かけるよう支援している。 |                        | 一人ひとりの希望にそってどんどん戸外へ出かけて行きたい。   |
| 62                    | ○普段行けない場所への外出支援<br><br>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している (認知症対応型共同生活介護) | 小旅行などの計画を立て出かけている。その際ご家族にも連絡し一緒に出かける機会を作っている。  | ○                      | 家族を含めた外出や、個別での旅行の機会をたくさん作って行きたい。   |
| 63                    | ○電話や手紙の支援<br><br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている (認知症対応型共同生活介護)                           | 希望があった時には電話をかけ話をしている。その際必要があれば職員が番号を押すなど支援をしている。職員が手紙を書いて出すことはあるが、本人に書くということは少ない。              |                        | 家族や友人、知人との関係がこれからも続いていくように、訴えがないときでも職員のほうから働きかけていきたい。  |
| 64                    | ○家族や馴染みの人の訪問支援<br><br>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している (認知症対応型共同生活介護)            | いつでも気軽に足をはこんでもらえるような環境作りを心がけている。   |                        | 利用者が家族や馴染みの人たちと楽しく過ごすことができるように環境の配慮をしていきたい。また、職員のことでも知ってもらい関係が築けるように本人との時間の妨げにならない程度に会話を持っていきたい。 |
| <b>(4)安心と安全を支える支援</b> |   |  |                        |  |
| 65                    | ○身体拘束をしないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる         | 身体拘束について職員は十分ではないが、理解しており、身体拘束をしないケアを行っている。  |                        | 身体拘束しないケアをこれからもおこなって行きたい。  |




| 項目 | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                 |
|----|--|------------------------|--|
| 66 | <p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p> <p>夜間の戸締り以外は開放している。</p>                              |                        | <p>鍵をかけることの弊害を職員全員が理解し、ケアに取り組んでいきたい。</p>                       |
| 67 | <p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p> <p>一人ひとりの所在や様子を職員全員が把握し、職員同士声をかけあい、安全生活することができるように配慮している。</p> |                        | <p>利用者の方々が見られていると感じないようプライバシーに配慮し、所在や様子の把握を行っていく。</p>          |
| 68 | <p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p> <p>ハサミなどの保管場所は決めているが、利用者が使うことができるようにはなっている。</p>         |                        | <p>危険だからといって排除するのではなく、危険であることを職員全員が認識し危険を防ぐよう支援をしていく。</p>      |
| 69 | <p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p> <p>一人ひとりに起こりうる危険を予測し、事故防止に努めている。</p>                 | ○                      | <p>事故についての勉強会を行い、職員の事故防止への意識を高めていく。</p>                        |
| 70 | <p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p> <p>行っているが定期的ではない。</p>  | ○                      | <p>定期的に勉強会を実施し職員の知識の向上に努めたい。</p>                               |
| 71 | <p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p> <p>火災訓練を実施し、避難経路や方法を確認している。</p>                  |                        | <p>定期的に訓練を行い、避難の方法などを身につけていきたい。また、近所の方の協力が得られるよう働き掛けていきたい。</p> |

| 項 目                       |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                    |
|---------------------------|--|--|------------------------|---|
| 72                        | ○リスク対応に関する家族等との話し合い<br><br>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている | 家族の面会時や月に1度の手紙を出す際に日々の状況について連絡しているが、状況の報告となっており、対応策を話し合うまでには至っていない。                | ○                      | ご家族に起こりえるリスクについて説明し、話し合える機会を定期的にもっていききたい。                         |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |  |  |                        |   |
| 73                        | ○体調変化の早期発見と対応<br><br>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている           | 体調の変化などについて一人ひとり記録している。変化に気がつけるよう努力している。   |                        | 一人ひとりの変化に気がつけるように日々の様子を記録し、情報を共有していく。変化に気がついた際は医師などとの連携を図っていく。    |
| 74                        | ○服薬支援<br><br>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている       | 処方箋はファイルし職員の目につくところに置き、いつでも確認ができるようになっている。   |                        | ひとり一人の薬の内容について職員全員が理解し、服薬の支援を行っていく。                               |
| 75                        | ○便秘の予防と対応<br><br>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる         | 水分の摂取量などに気をつけている。また、できるだけ体を動かしてもらえるように働きかけている。                                     |                        | 便秘について理解し、食事の工夫や水分をできるだけ多く取ってもらい摂取量を観察する。また、体を動かしてもらえるように働きかけていく。 |
| 76                        | ○口腔内の清潔保持<br><br>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている                   | 朝、晩のみで毎食後きちんと行うことができていない。  |                        | 一人ひとりの口腔内の状態を理解し、食後は職員も一緒に行っていくようにする。                             |
| 77                        | ○栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている      | 一人ひとりの状態や、習慣に合わせて食事や水分内容などを変えて提供している。食事を摂ることが難しいかたに対しては少しでも食べてもらえるように工夫し食べてもらっている。 |                        | 一人ひとりの状態や習慣に合わせた支援を行っていく。摂取の状況は記録し、共有を図り、統一した支援を行っていく。            |

| 項 目                            |   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                      | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)  |
|--------------------------------|---|--|------------------------|--|
| 78                             | ○感染症予防<br>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)  | 感染症に関する予防、対応のマニュアルがある。感染症が起らないように予防に努めている。                           |                        | 感染症が起こった際は対応のマニュアルに添った対応を行う。感染症が起らないように日々予防に努める。   |
| 79                             | ○食材の管理<br>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている  | 毎日買い物へ行き新鮮な食材を利用している。又、調理用具などの洗浄、消毒を行い食中毒の予防に努めている。                  |                        | 新鮮な食材を使用し、食材の管理にも気をつけていく。また、調理用具などの衛生管理を今まで同様きちんと行っていく。                                    |
| <b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> |   |  |                        |  |
| <b>(1)居心地のよい環境づくり</b>          |   |  |                        |  |
| 80                             | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫<br>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている                                | 玄関先にうさぎの小屋があり近所の方が立ち寄ってくれる。花などを植え親しみやすい環境を作っている。                     | ○                      | ベランダや玄関先の花壇に花を植えるなどして親しみやすいような環境作りを行っていきたい。  |
| 81                             | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者にとって不快となるような音や光がないように配慮している。状況に応じてテレビやCDをかけて穏やかな雰囲気でも過ごせるようにしている。 |                        | テレビをつけっぱなしにしたりせずに、状況に応じてつけたり消したりし不快にならないように配慮していく。また、季節感が感じられるように季節の花や飾りを飾ったりして季節を感じていただく。 |
| 82                             | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている                                | ソファやこたつコーナーがあり利用者同士で利用したり、ご家族が面会に来た際に利用されている。また、玄関先のスペースも活用されている。    | ○                      | 玄関先のスペースは活用されているが殺風景なので過ごしやすいような環境作りをしていきたい。また、廊下のスペースもうまく活用していきたい。                        |

| 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|--|--|------------------------|--|
| <p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>ご家族と相談し自宅で使用していた使い慣れたなじみのものを持ってきてもらい、まだまだ一人ひとりに十分ではないが、本人が居心地よく過ごすことのできる環境作りを行っている。</p> |                        | <p>ご家族と相談し本人にとって居心地の良い環境作りをしていきたい。</p>   |
| <p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>        | <p>換気には十分に気を配っており、気になる臭いやだよみがないように注意している。また、温度調節もこまめに行っている。</p>                            |                        | <p>換気、温度調節とも気を配りこまめに行っていきたい。</p>   |
| <p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>  |  |                        |  |
| <p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>                 | <p>手すりや椅子、ベンチなどがあり、安全で自立した生活が送れるように工夫している。</p>   |                        | <p>手すりなどがあり自立した生活を送ることができる環境にあるので職員が手を貸しすぎたことで自立を妨げてしまうことがないように支援していきたい。また、利用者の身体状況が変化した際には環境の見直しを行っていきたい。</p> |
| <p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>                           | <p>一人ひとりのできる力を活かして、出来るところは時間がかかってもゆっくり行ってもらおうように心がけ支援しているが、時々手を貸しすぎることがある。</p>             | ○                      | <p>一人ひとりの出来ること出来ないことをもう一度見直して、利用者の持っている力を活かしてもらえるような環境、役割作りを行っていきたい。</p>                                       |
| <p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>                                   | <p>花を植え、その周りでお茶会を行ったり、畑の野菜を収穫したりしているが、まだまだ空間をうまく利用されていない。職員が主となり行っていることが多い。</p>            | ○                      | <p>利用者同士で楽しんだり、活動ができるように花壇や畑の環境を整えていきたい。</p>   |

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

| V. サービスの成果に関する項目 |  | 取 り 組 み の 成 果<br>(該当する箇所を○印で囲むこと)                                       |
|------------------|--|---|
| 項 目              |  |   |
| 88               | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる                      | ○ ①ほぼ全ての利用者の<br>②利用者の2/3くらいの<br>③利用者の1/3くらいの<br>④ほとんど掴んでいない<br>⑤その他 ( ) |
| 89               | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある                         | ○ ①毎日ある<br>②数日に1回程度ある<br>③たまにある<br>④ほとんどない<br>⑤その他 ( )                  |
| 90               | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている                            | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない<br>⑤その他 ( )    |
| 91               | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている                 | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない<br>⑤その他 ( )    |
| 92               | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている                           | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない<br>⑤その他 ( )    |
| 93               | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている                    | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない<br>⑤その他 ( )    |
| 94               | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている            | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない<br>⑤その他 ( )    |
| 95               | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ ①ほぼ全ての家族と<br>②家族の2/3くらいと<br>③家族の1/3くらいと<br>④ほとんどできていない<br>⑤その他 ( )    |
| 96               | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている                 | ○ ①ほぼ毎日のように<br>②数日に1回程度<br>③たまに<br>④ほとんどない<br>⑤その他 ( )                  |

| 項 目 |   | 取 り 組 み の 成 果<br>(該当する箇所を○印で囲むこと)   |
|-----|---|---|
| 97  | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | <input type="radio"/> ①大いに増えている<br><input type="radio"/> ②少しずつ増えている<br><input type="radio"/> ③あまり増えていない<br><input type="radio"/> ④全くいない<br><input type="radio"/> ⑤その他 ( )           |
| 98  | 職員は、生き活きと働けている  | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が<br><input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが<br><input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが<br><input type="radio"/> ④ほとんどいない<br><input type="radio"/> ⑤その他 ( )       |
| 99  | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                           | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が<br><input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが<br><input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが<br><input type="radio"/> ④ほとんどいない<br><input type="radio"/> ⑤その他 ( )    |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                       | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が<br><input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが<br><input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが<br><input type="radio"/> ④ほとんどできていない<br><input type="radio"/> ⑤その他 ( ) |

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ユニットとしての理念を職員全体で考えケアにあたっています。楽しく暮らせるために入居者、家族の願いを叶えられるよう努力すること、また、居心地のよいなじみの環境づくりを理念として掲げています。入居者の思いや願いを理解し、少しでもそれに近づけるよう努めています。すずらんが一人ひとりにとってなじみの環境となるように一人ひとりに合わせた環境づくりをご家族の協力を得ながら行っています。